



バッハの森通信

第 145 号
2019 年
10 月 20 日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail: info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

「バッハの森」の意味

バッハを自由に楽しむところ

台風 15 号は、やや離れて通過してくれたので、バッハの森の建物は被害を免れました。甚大な被害を蒙られた千葉の方々には、心よりお見舞い申し上げます。それにしても、これまで経験したことがない強い風でした。そのため折れたけやきの大枝で、資料館の入り口が塞がれそうになったので、植木屋さんにぼさり伐採してもらいました。

このけやきは、35 年前にバッハの森を創設したときに植えたほんの庭木程度のものが、今は 2 階の屋根に覆いかぶさる大木に成長したものです。これほどの大木になるとは予想しないまま、意図的に植えた木でした。それには創設時の事情がありました。

* * *

バッハの森の最初の候補地は、現在、キャンプ場などがある、つくば市営の豊里ゆかりの森の平地林の一画でした。この林の所有者の方からお誘いを受けましたし、実際、森を探していたからです。バブルの喧噪を逃れて“森林浴”で癒やされることが流行っていた時代でした。その影響もありましたが、11 年前に亡くなったバッハの森の創設者でオルガニストの石田一子が、息をする楽器のオルガンには、息をしている木々のある場所が相応しいと考えていたからです。彼女の意向に沿って建築された奏楽堂は、当時まだ珍しかった集成材によって建築され、その音響もたまたまいもオルガンを演奏するのに理想的な建造物になりました。

しかし、候補地の平地林は、私的な建物が建てられない区域に定められていたことが分かり、田んぼに面した現在の場所にバッハの森は建てられました。そこは小さな雑木しか生えていない場所だったので、それでは自分で森を造ろうと、とんでもないことを思い立ち、相当数の庭木を植えたため、35 年たった現在、大

木になったけやきやヒマラヤ杉をもてあましていた始末です。とは言え、大木の木陰に囲まれたバッハの森独特の雰囲気を楽しんでいることも事実です。

* * *

最初の候補地の平地林で建設計画を始めたときに、その 5 年前から活動を始めていた「筑波バッハ合唱団・合奏団」を継続して、森の中に建てるはずだったので、自然な成り行きで「バッハの森」という名称が決まりましたが、後から考えると独りよがりな名称でした。これらの経緯を知りごく少数の人を除いて、「バッハの森」という名称では、それが何をするとどこか分かる人はいないからです。

それだけではありません。実はこの名称には多くの思いが籠められていましたが、当然、それがこの名称から伝わるはずもありませんでした。ただ 35 年の活動を通じて分かったことは、これは年月をかけて活動を積み重ねなければ伝えられない思いだったということでした。と言うわけで、35 年たった今、「バッハの森」という名称に籠めた思いを、敢えて短く説明してみます。

「森」という名称で、学校でもない教会でもない、あらゆる既存の制度とは別の、バッハを楽しむところを表そうとしたのです。精神的“森林浴”の場を考えていたとも言えます。ここまでは何とか理解してもらえとしても、このような「森」が、偉大な音楽家のバッハとどう結びつくのか、分かってもらえるのは難しいでしょう。しかし 35 年間、ここに集まる人たちはバッハを楽しんできました。具体的には、バッハの最も主要な作品である教会カンタータとルター以来伝わる会衆歌(コラール)を中心に、合唱、オルガン、ハンドベルなどの演奏と研究、それにバッハの音楽の大枠であるキリスト教文化の土台として聖書を学んできました。ただし会員は各々全く自由に自分が楽しいと思うことだけに参加できるのです。この不思議な「森」にさらに多くの皆様のご参加をお待ちしています。(石田友雄)

夏休みの音楽会

(8月18日)

美しい数々の音楽と 元気なカッコウ笛の響き

「夏休みの音楽会」が8月18日午後2時から開かれました。夏の昼下がり、扇風機、エアコンを総動員してもまだ暑い中、それでも奏楽堂はすぐ子ども連れのお客さんで満員になりました。

プログラムは、バッハの森の象徴であるパイプオルガンの演奏から始まりました。カルク=エラートという20世紀初めのドイツの作曲家の音楽でしたが、厳かな響きと美しい音色に皆さん魅了されていました。音楽会の後で、パイプオルガンを近くで見せて欲しいという方々が大勢いました。

次は子どもたちの「ハンドベル・リンガーズ」が、「小鳥の結婚式」というドイツ民謡の可愛らしい曲を、楽しそうにそして堂々と披露しました。その後は「声楽アンサンブル」の皆さんが、「即興による動物の対位法」という、難しいタイトルの曲を、実際にはソプラノ、アルト、テナー、バスがそれぞれカッコウ、ふくろう、猫、犬、牛などの鳴き声を交えて語りかける面白い歌を聴かせてくださいました。4番目に、私もチェロで参加させていただいた「器楽アンサンブル」が、フルート、ヴァイオリン、2挺のチェロという編成でレスピーギの組曲より「アリアーナ」を演奏しました。私自身は美しい旋律を楽しむ余裕もないまま、あっという間に終わってしまいました。皆さんにはどのように聴こえていたのでしょうか。

ここで皆さんに奏楽堂の隣のホールに移動し、家族ごとに座って、準備した「カッコウ笛キット」を組み立てる工作をしていただきました。大騒ぎして出来上がった笛を、あちこちでピッピ、ピッピと吹き鳴らして大変にぎやかな工作教室になりました。

こうして組み立てたカッコウ笛をそれぞれたずさえて奏楽堂に戻り、ドイツ民謡「カッコウ」を合奏の伴奏でみんなで歌い、1曲ごとにカッコウ、カッコウと笛を吹き鳴らしてもらって楽しみました。それから「ハンドベル・リンガーズ」と「ハンドベル・クワイア」による子どもと大人の合同演奏により、イギリス民謡「喜びの歌」の美しいメロディーが演奏され、続いて「声楽アンサンブル」が、同じ「喜びの歌」を美しいハーモニーで奏楽堂を包み、最後はお客さん全員にも参加していただいた「喜びの歌」の合唱と合奏で音楽会を締めくくりました。

今年の「夏休みの音楽会」では、新しい試みをしたとうかがっています。まず「カッコウ笛」組み立ての工作です。発案者の別所香苗さんを中心によく準備され、当日の段取りも素晴らしく、初めての試みにもかかわらず、トラブルもなく大成功でした。もう一つの試みは、近所のお店から広告をいただくことでした。

4軒のお店からご参加があり、その広告費によって中学生以下の子どもたちの入場料を無料にすることができました。これをきっかけに地域の皆さんとの交流が増え、バッハの森がより多くの方々の憩いの場になれることを願っています。この他にも会員の皆さんの多くの工夫、頑張りがあり、楽しい夏休みの音楽会が実現できたことを実感しました。私も参加させていただき、有り難うございました。(山口典子)

* * *

わくわくする楽しい 思い出作りを目指して

今、二人の息子のブームはトンボ取り。毎日、幼稚園と小学校から帰ると、網を片手に自転車にまたがり、近所の田んぼに向かいます。息子にせかされてトンボを追いかけっていると、田んぼで友達と駆け回った子どもの頃の記憶がよみがえってきます。昔から田んぼは大好きな遊び場でした。

先日読んだ本に、子育てをすることは子ども時代を再体験すること、という一文を見つけ、大いに頷いたものです。子どもと一緒に童話を読んでは、昔々の遠い異国の出来事に心をときめかせ、童謡を歌っては美しい旋律と歌詞の世界に魅せられています。あたかももう一度子ども時代を過ごしているような気分になるのです。その度に、大人になった今、魅了されてやまない世界は、幼い頃から好きだったものばかりだということに気づかされます。その萌芽はすべて子ども時代にあると言えるかもしれません。

バッハの森では、年に2回、子ども向けの小さな「音楽会」が開かれます。普段からバッハの森で活動しているメンバーによる器楽アンサンブル、声楽アンサンブル、ハンドベル、オルガンなどの演奏により構成されるプログラムに、その都度、音楽以外の「出し物」が挿入されます。今回の「夏休みの音楽会」では、タピオカ用ストローを使った「カッコウ笛」の工作をすることにしました。

工作をプログラムに組み込んだのは初めてのことでしたが、出演者の皆さんが練習の合間を縫って、30人分の「カッコウ笛キット」の準備をしてくださいました。本番当日、工作用と並べたテーブルは幼い子どもたちとその保護者で満席になりました。ストローの折り具合でうまく音が出ないことも判明し、振り返れば反省点も多々ありましたが、みんないい音を出そうと一生懸命取り組んでいました。

その後で、この日のために編曲してくださった比留間恵さんの指揮のもと、ドイツ民謡の「カッコウ」を器楽合奏にオルガンも加わり、出来上がったばかりのカッコウ笛で演奏しました。合図に合わせて子どもたちが楽しそうに「カッコウ、カッコウ」と笛を吹く姿は微笑ましく、みんなで音楽を奏でる楽しさに溢れていました。

今後子どもたちが楽しんでくれること、わくわくすることを目指して「音楽会」を開いていくつもりです。こうしてバッハの森で作り出される音楽の世界が、子どもたちの心の琴線に触れ、それが芽となり、いつか大人になったときに人生を豊かにする実りへと育ってくれればと願っています。子どもたちが生きる未来は、今よりもっと困難な時代になるかもしれません。そんなとき、幼い頃から変わらず持ち続けた好きなこと、わくわくすることは生きるエネルギーになると信じています。(別所香苗)



カッコウ笛の組み立て工作



カッコウ笛で演奏に参加

楽しく歌おう (9月7日)

息の通り道を探す喜び 全身がスッカリしました

普段は、息子たちのハンドベル・リンガーズに付き添っている母の私。今回は、自分のために歌唱のご指導をいただきたく、比留間恵さんの「楽しく歌おう」に参加しました。

私は、自分の声が好きではありません。高くてきれいな話し声、美しい歌声に憧れていました。小学生の頃、当時流行っていた宇崎竜童さんの「港のヨーコ横浜横須賀」をカセットテープに録音して聞き返した時

のショック。「アンタあの娘(コ)のなんなのさ」は、どう聴いても男の子の声。自分の低い話し声、歌声のショックの大きかったこと……。それでも、部活はオーケストラ部、楽器演奏は大好き。音楽依存症といえるほど曲を聴きまくる毎日でした。

それがもう年齢的にも人生折り返し。この声のまま、声質の良し悪しではなく、歌いたい気持ちを何より大切に、気持ちよく歌うことを目指したく、思いきって参加することにしました。

最初はどんなレッスンが始まるのだろうか、緊張していました。ですが、終始、比留間さんの温かく楽しいお人柄、丁寧で分かり易いご指導のお陰で、まさに「楽しく歌おう」の通り、多くのことを学ぶことができました。

まずは「息の体操でウォーミングアップ」から。息を思い切り吐いてみたり、お腹をへこませながら長い息、短い息で母音の練習をしました。「息の通り道を探ってみてください、年齢とともに変わったりもします」と初めて何うアドバイス。そうか、自分の声質が好きじゃなくても、息の通り道を体得して、そこから声をうまく響かせられたら上手く歌えるんだ！と気付かせて頂きました。これは、今回参加した何より大きな収穫となりました。

昨年、ノバホールの市民文化祭でも、比留間さんが楽しく観客の皆さんを指導してくださった「ハローハロー」の曲、そして、自然と参加者の名前を覚えられる歌詞になっている「How do you do」でたっぷり息を使って、まだこれでウォーミングアップなのかと、正直この時点でお腹が疲れておりました。

その後は、8小節ほどの素敵なメロディーを4曲ほど。そして、火事だ、火事だ！の「山火事」、止まれ赤だ！の「交差点」、刺される前に殺してしまえ、とちょっとブラックな歌詞の「蚊のカノン」などを楽しく歌いました。

奏楽堂の高い天井に響くようにとのアドバイスで声を遠くに届けるよう意識することができました。また、数人ずつのグループに分けて、カノンを歌う指示もいただきました。それによって歌い出しのタイミングを測るためにも、他のグループの声を必然的にきちんと聴くことができました。

最後はバッハの森ならではの曲、「主よ、憐れみたまえ」と「与たまえ、我々に平和を」で締めくくりました。この頃にはアドバイス通り、少しはお腹や背中を意識して歌っている自分に「私も習えば変わるかも」と明るい希望が見えてまいりました。レッスン後は血流が良くなったようで、全身がスッカリしました。比留間恵さんの素敵なマジックにかけられ、自然に多くのことを体験し、学ばせていただきました。有り難うございました。

またこのような機会がありましたら、是非参加したいです。それまでは、今回いただいた貴重なアドバイスを忘れないよう、車の運転中、好きな曲をかけながら息の通り道を探るべく、大声で歌いまくるつもりです。(佐藤恭子)

7. 5 楽譜整理 参加者 6 名。
7. 8, 9 クラヴィコード修理 小淵晶男氏。
7. 10～19 補修工事 (デッキ張り替え) ニットウ工業。
7. 13, 25 運営委員会 参加者 6, 4 名。
「夏休みの音楽会」総練習 参加者 13 名。
8. 2, 15 楽譜整理 参加者 2, 3 名。
8. 18 「夏休みの音楽会」参加者 73 名。
9. 2, 5, 6 補修工事 (会議室、2 階通路)。
9. 3 すずめ蜂の巣除去
9. 5 楽譜整理 参加者 1 名。
9. 7, 12 運営委員会 参加者 5, 4 名。
「楽しく歌おう」参加者 11 名。
9. 13 「秋のシーズン」開始
9. 21 生け垣剪定と草取り 参加者 8 名。
9. 28 樹木伐採 鈴木農園
夏休みの音楽会の反省会 参加者 9 名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラール・カンタータ研究

コラールとカンタータ (JSB)

9. 14 三位一体後第 2 主日のカンタータ「ああ神よ、天より見わたしてください」(BWV 2) ; コラール「主よ、地を見わたし」。オルガン : J. S. バッハ「あなた、神よ、御言葉を純粋に守ってください」(BWV 2/6)、金谷尚美。参加者 9 名。
9. 21 第 454 回、オルガン : J. G. ヴァルター「ああ神よ、天より見わたしてください」、金谷尚美。参加者 11 名。
9. 28 三位一体後第 10 主日のカンタータ「私たちから取り去ってください、主よ、誠なる御神よ」(BWV 101) ; コラール「取り除きたまえ」。オルガン : J. S. バッハ「あなたの右の御手で私たちを導き」(BWV 101/7)、並木聡子。参加者 6 名。

学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 9. 14/15 名、9. 21/10 名、9. 28/10 名。
オルガン音楽研究会 9. 13 /11 名、9. 27 /7 名。
コラール研究会 9. 13/10 名、9. 27/8 名。
クラヴィコード・オルガン教室 9. 27/3 名。
オルガン・クラブ 9. 20/4 名。
ハンドベル・クワイア 8. 10/6 名、9. 28/5 名。
声楽アンサンブル 7. 13/7 名、8. 10/6 名。

- 器楽アンサンブル 7.13/4 名、8.10/4 名、9.28/4 名。
読書会 : 聖書 9. 14/4 名、9. 21/6 名、9. 28/3 名。
ハンドベル・リンガーズ (小学生のハンドベル・クラブ) 7. 21/12 名、9. 29/6 名。
声楽教室 9. 7 /2 名。
チェンバロ教室 9. 13/2 名。
オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習
7. 2/1 名、7. 5/1 名、7. 6/1 名、7. 10/1 名、7. 16/1 名、7. 25/1 名、7. 26/1 名、7. 27/1 名、7. 30/2 名、8. 2/2 名、8. 3/1 名、8. 6/1 名、8. 8/1 名、8. 10/1 名、8. 13/1 名、8. 15/2 名、8. 16/2 名、8. 17/1 名、9. 5/1 名、9. 6/2 名、9. 7/1 名、9. 10/1 名、9. 11/1 名、9. 12/2 名、9. 13/3 名、9. 14/3 名、9. 18/1 名、9. 19/1 名、9. 20/5 名、9. 21/2 名、9. 25/1 名、9. 26/2 名、9. 27/2 名、9. 28/2 名、9. 29/2 名。

寄贈者芳名

- 浪川幸彦氏より、次の楽譜と書籍の寄贈がありました。
新バッハ全集 (NBA)
シリーズ I : カンタータ 第 1 巻～第 41 巻 (全 49 冊)
(Serie I : Kantaten Band 1～41)
シリーズ II : ミサ、受難曲、オラトリオ 第 9 巻
(Serie II : Messen, Passion, oratorische Werke Band 9)
シリーズ III : モテット、コラール、歌曲 第 3 巻
(Serie III : Motetten, Choräle, Lieder Band 3)
新バッハ全集校訂報告 (NBA Kritischer Bericht) 57 冊
バッハ年鑑 (Bach-Jahrbuch) 1976～2016